

はじめに

- ・ 「生きる力」の構成要素：①確かな学力 ②健やかな体 ③豊かな心
③が全体で①②が部分，人格が重要である。実社会・実生活に生きる力が大切。
- ・ 「活用型」授業＝「活用型」学習を行っている授業
「活用力」→「活用型」学習と「探究型」学習の両方で育てられる能力の意味。

1 「確かな学力」「生きる力」重視の背景

- (1) 先に進んでいるモデルがいなくなった。 → 考える力，創造力を育てることが必要
- (2) 家庭・地域から教育力が衰えている。 → 学校が全てを任せられるようになると，家庭や地域の教育的関心が一層なくなり，子どもにとってよくない。
- (3) OECD/PISA の学力観は「生きる力」と似ており，その低下傾向は改善する要あり。

2 「確かな学力」を育てる授業

- (1) 「確かな学力」とは「知識・技能」と「思考力等」の両方の育成が別々に必要。
記憶重視から思考重視へ。しかし思考の質をよくするには，記憶の質がよくならなければならない。
- (2) 「確かな学力」における「確かさ」とは
ア 知識・技能の「正確さ」：習熟・定着のため
イ 思考・論理の「確実さ」：機能や問題解決
ウ 反省・吟味の「確かめ」：調整や修正
- (3) 知識・技能と思考力等の両方を育てる授業とは
ア 「知識・技能」習熟のための「集中」と「効力感」のある教科の授業
イ 「思考力等」を十分働かせることができる時間が保証された総合的な学習の授業
ウ 「知識・理解」を活用して「思考力等」を練り上げる教科の「活用型」の授業

3 「活用型」授業とは

- (1) 「活用型」授業は「思考力等」の確実な育成のための手段・手立て→最終目標でない。
「思考力等」育成は，「探究型」学習中心の総合的な学習が主，教科の発展的学習が副。
- (2) 「活用型」学習は「習得型」学習と「探究型」学習とをうまくつないで後者の質の向上を図るもの。

4 「活用型」授業の基礎条件

- (1) 教育目標が「明確な」授業
- (2) 「多彩な」指導方法・指導形態が組み合わされている授業
ア 「目標に応じて」異なる方法・形態＝ハイブリッド型カリキュラムによる。
イ 子どもの「個性に応じて」異なる授業＝発達段階・個人差にも配慮
- (3) 「個人と集団の相互作用」が用意されている授業：「活用」場面をつくりやすい。
ア 個別学習と「一斉学習」と小集団学習→個人と集団を原則として分離しないこと。
イ 「認め合い・高め合い・磨き合う集団」の形成
- (4) 「体験と理論との往復運動」がある授業
ア 体験→理論（帰納的）
イ 理論→体験（演繹的）
ウ 体験→小仮説→理論
- (5) 「学力と人格の相互作用」がある授業
ア 学力の向上が全員に認知される授業
イ 人格の良さが全員に認知される授業
ウ 学力が人格の一部に位置づけられて評価される授業

おわりに

- ・ 「活用型」学習をどう確立するかが鍵！

